

編集委員会便り

昨年(1993)の10月、ベルリン滞在中に旧東ベルリン側にある石炭焚き発電所を天然ガスに切り換えるとの決定に対し、反対する炭鉱労働者がアウトバーンを封鎖するという騒動に出くわした。この出き事が象徴するようにヨーロッパ諸国における天然ガス転換への意欲は高い。この需要増に応えるべくアルジェリアからモロッコを経てポルトガルへと地中海を横断するパイプラインが1本増設されるという。

インドネシアやマレーシアなどアジア諸国は、わが国にとって天然ガスの主要供給国であるが、経済的発展にともない、自国消費を増大させており、わが国としてはサハラなど新しい供給地の開発と確保を考える時が来ている。

このように地球環境問題の見地から炭酸ガス排出の低減が求められ、最も簡便な方策として天然ガスへの燃料転換が一般的風潮となる中で、世界各国の動向に

ついてエネ研・森田氏に詳しく紹介して頂いた。あわせて天然ガス資源の探査、生産、精製という周辺技術の動向もそれぞれの権威にまとめて頂いた。

天然ガスへの関心が高まるにともない、通常のコークス資源とは異なった新しい資源が注目されている。その代表として2つを取り上げる。また天然ガス利用技術として脚光をあびているNEDOプロジェクトを紹介する。

このように、天然ガスに関する一通りの新しい動きが本特集を通じて理解して頂けるものと期待している。本特集はいうまでもないが、展望・解説などを含めて本号に御寄稿頂いた諸氏に心からの御礼を申し上げます。

吉田 邦夫

(東京大学工学部化学工学科教授)

